

2013（平成25）年度 京都大学 入試問題 理系 第2問 解答例

問一

見立ては、本来言葉以前の存在であった経験内容を最も正確に言語化する目的で、分類上は違うものを指す言葉を、承知の上でやむをえない方便として用いるということ。

問二

経験内容を違うと承知している言葉であえて表現するのは、共有されている分類基準による名称が経験内容と無関係か、少なくとも不正確な故の必然であるということ。

問三

客観的特徴を基準とする博物学的分類による既存の言語規則とは異なる、新たな分類基準によって意味付与され命名されるべき、主観的な印象を伴う自己の経験内容。